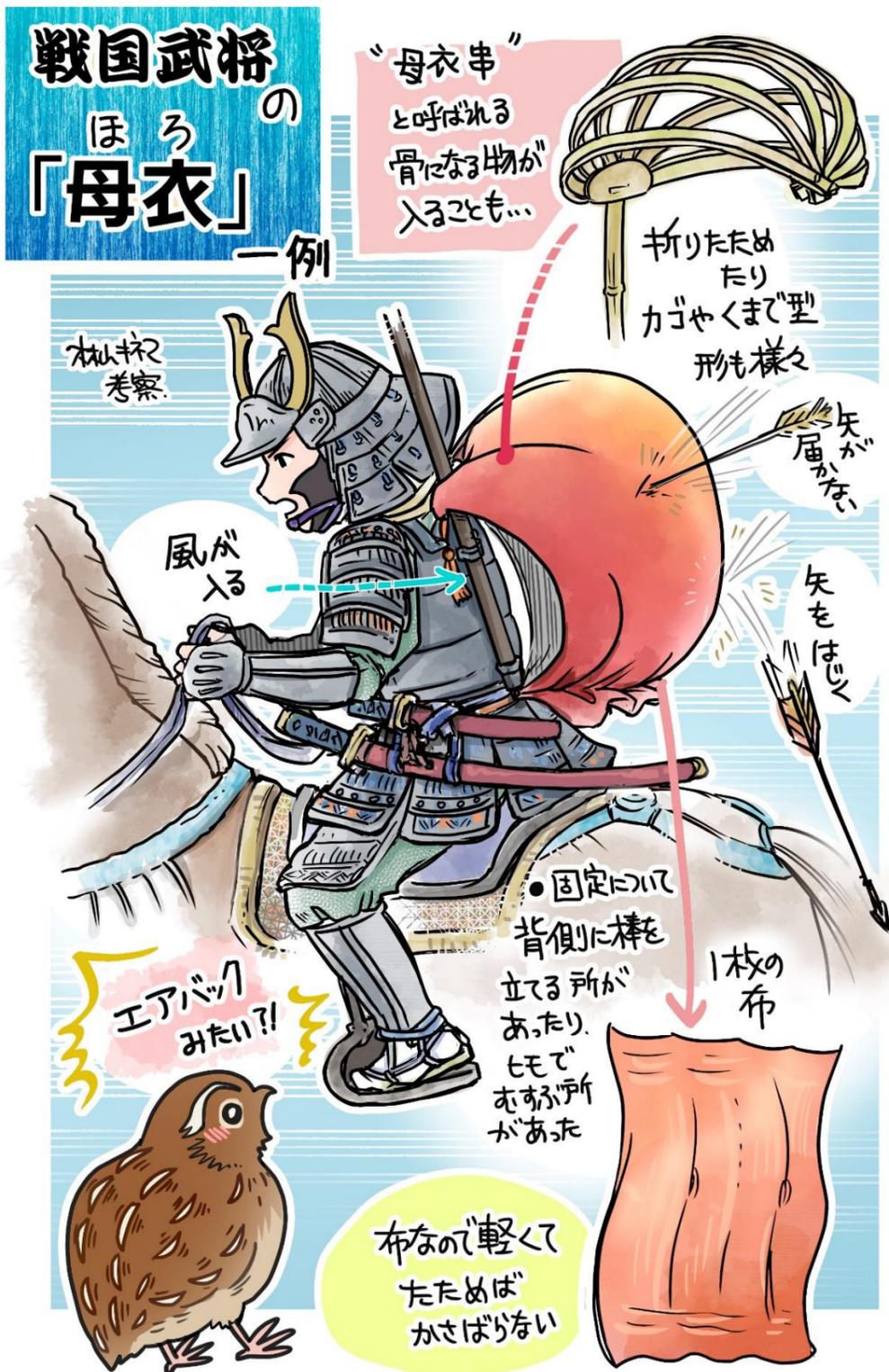
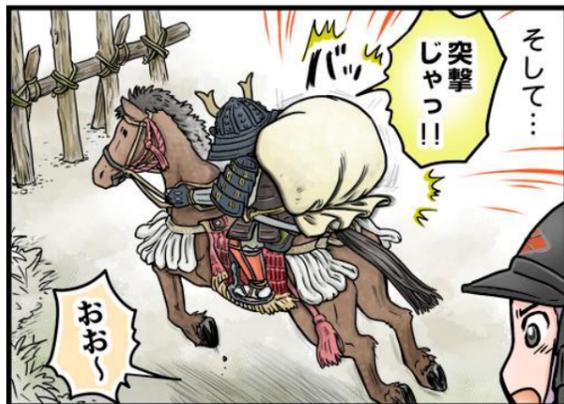


設楽原の戦いへの道



母衣



【戦国時代の鶉(うずら)】陣中で鳴かせて、戦の吉凶を占っていた。砂浴びが大好き。

〈参考文献〉鶉の飼ひ方 〈著者〉農業世界編輯局 〈出版年〉昭和十七年

【馬防柵】武田軍騎馬隊の攻撃を防ぐために、織田徳川連合軍が設置した柵

【武田軍の配下になった鶉(うずら)】山梨のうずらは、武田信玄に痛めつけられたため、鳴くことはないといわれている

〈参考文献〉蜀山人全集 巻五 〈著者〉大田南畝 〈出版年〉明治四十一年

【母衣】武将が背中にまとい、敵矢を防ぐ袋。長篠合戦図屏風に描かれている